

令和5年度第1回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

令和5年6月26日（月） 午前10時00分～午前11時40分

2 会場

花巻市定住交流センター（なはんプラザ） 1階 COMZホール

3 出席者

（1）委員出席者

小田島浩徳委員、浅沼幸二委員、佐々木博委員、佐藤貴哉委員、石川恭也委員、中村良則委員、和川央委員、須川和紀委員、高橋忠和委員、漆沢俊明委員、佐藤充委員、中村佳子委員、熊谷仁見委員、菅原康之委員、松葉孝博委員、川村厚委員 以上16名

（2）委員欠席者

高橋豊委員

（3）市側出席者

上田東一市長、岩間裕子総合政策部長、富澤秀和秘書政策課長、伊藤浩秘書政策課課長補佐、八重樫尚孝秘書政策課企画調整係長、菊池遼秘書政策課主査、川村芽衣秘書政策課総合計画策定室主査

4 会議内容

（1）開会

（2）市長あいさつ

【上田市長】本日は令和5年度第1回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議にお忙しい中、ご出席賜りましてありがとうございます。皆様のご意見をいただきながら、このまち・ひと・しごと創生を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

花巻市における、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標として、「花巻市にしごとをつくり、安心して働けるようにする」、「花巻市への新しい人の流れをつくる」、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」そして「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」この4つを掲げております。

地方創生に関しては、先日新聞に石破元地方創生担当大臣や前岩手県知事の増田寛也さんのインタビューが掲載されておりました。その中では、最近、地方創生についての熱意が下がっているのではないかというような発言をされていることを目にしました。これは我々地方では全くそのようなことはないものであります。

過去に石破大臣が地方創生について「地方が知恵を出すところについては、国が支援します。」とおっしゃっておられました。地方が知恵を出すのは当然のことですけれども、国の地方創生支援というのは、例えばその時々各自治体の首長を初めとする

その市町村の方々が、いいアイデアを出したところのみ国が支援するというものではなく、国がやるべきは、首長にアイデアがあるからというのではなく、地方に住む国民一人一人がしっかり生活できるようになるための地方創生を支援すべきだということであり、それは変わっていないと思うところです。

我々としては先程申し上げました基本目標に向かってこの花巻市を元気にしたいということについての気持ちは全く変わっておりません。花巻市における地方創生について、私としては皆様にさらに、いろんなご知恵をいただきながら、施策を進めていく必要があると思っている次第です。

今日は3つの項目について説明をさせていただきます。「花巻市の人口動態について」、「花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和3年度の効果検証」、そして「地方創生関係交付金の実施状況報告」と、この3つについてご説明をさせていただきます。

この3年半におきましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金のような交付金についても、実は地方創生に限定したものだけではなく、コロナ禍のもとにおいて、地方が非常に困っている部分、例えば地域の地場産業あるいは地場店舗に対する支援等について交付金を使ったことが特に多い状況でありました。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金に限られない地方創生関係交付金についてのお話が多くなるかもしれませんが、そこも含めて皆様には、ぜひ忌憚のないご意見をいただいて、少しでも花巻市が元気になるような施策を皆さんとともに作っていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

今日は本当にお忙しい中、貴重な時間を頂戴いたしますがよろしくお願ひ申し上げます。

(3) 座長選出

事務局案という意見が委員より出され、中村良則委員を座長に選出。
職務代理者には、中村座長より和川央委員を指名。

(4) 議事

【中村良則座長】私は第1期のときから座長を務めておりまして、今、改めて委員の皆さんの顔ぶれを見ると、ずいぶん変わってしまったというふうに思っております。その分、新しい感覚でフレッシュな意見をいただければこの会議が活性化するのかなと思っております。本日はどうかよろしくお願ひいたします。

早速議事を進めさせていただきます。(1) 花巻市の人口動態について事務局より説明をお願ひいたします。

岩間総合政策部長から花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要を説明。続いて冨澤秘書政策課長から、資料No. 1「花巻市に人口動態の概況」に基づき説明。

【中村良則座長】ただいまの説明について、ご質問やご意見のある方は、挙手をお願ひいたします。

【松葉孝博委員】この3ページの人口動態について、平成27年から全てが三角（マイナス）で0より下の数値ですが、0というのは何が0で、マイナスなのかなというのが分からず、例えば目標値の人数より低いということのその目標値ってというのは何人なのだろうと聞きたいと思います

【中村良則座長】グラフの意味ですね。説明をお願いいたします。

【伊藤秘書政策課長補佐】3ページの人口動態の三角（マイナス）の部分がどうしてこうなるのかということですが、人口増減につきましては、自然増減と社会増減を相殺した内容となっております、自然増減数は、平成27年度はマイナス629人で、直近の令和4年だとマイナス1,160人ということで、自然増減のマイナスが大きくなっております。

自然増減の内訳を申し上げますと、出生数と死亡数を相殺した結果ということになりますので、生まれてくる方よりも亡くなる方がどうしても多く、それが原因で社会増減がプラスになったとしても、人口増減が三角（マイナス）になってしまうという状況になっております。

【中村良則座長】よろしいでしょうか？若干補足すると、社会増減は単純に市から出ていく人と入ってくる人を指します。他にいかがでしょうか。どんなことでも結構だと思います。

【佐藤充委員】今回、労働者の立場として参加させていただいております連合花巻北上地域協議会の佐藤と申します。

資料3ページの下段、年代別の社会増減ということで、最後の下の方にいろいろとその効果を部分で書いてある中で、やはり0歳から14歳と30歳から39歳の転入が多いと。それが子育て支援の施策等の効果もあるのではないかとこのところが書かれているのは、花巻市の素晴らしい活動の結果が出ている部分もあると思っております。

その中で数字を見ていくと、やはり一番気になるのは18歳から21歳のマイナス133人という数字です。戻ってきて子育てをしっかりとできるという部分について、これから若い方々、働く方々にとって花巻市に定住する部分がまだ難しいというのが、この数字から取って見えるのかなと思っております。

特に労働の立場として今よく言われるのは、やはり賃金の関係です。地方というのとはかなり低く、特に岩手県も全国的に言うとなら下から数えて片手に入るくらいの位置にいます。労働側としても岩手県の中で、特に賃金を注視していくとしていろいろやっています。地方としての岩手、花巻に労働者として定住する部分がどうしても難しいというのが、私達の方ではよく意見として出ております。

この中で子育て支援等から繋がって生活が続く部分を今後考えなければならないのかなというところで、多分花巻市の受け入れる体制が改善されてきていますが、定住という部分に向けて考えていく必要があるのではないかとこのことをご意見として挙げさせていただければと思います。

【中村良則座長】定住という部分が大事じゃないかと、そういうご意見だと思います。

いかがでしょうか？

【富澤秘書政策課長】 ご意見ありがとうございます。18歳からの若年層の転出が多いということにつきまして、地元、花巻で働くという意味で言いますと、職を目指そうとする人や、職に就きたい人と地元企業さんの情報がマッチしていない部分があるのではないかとということから、商工労政課では地元の企業の検索サイト「おしごとNAV I花巻」を活用してミスマッチをなくす取り組みもさせていただいているということをご紹介させていただきたいと思います。

【中村良則座長】 よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか？

【和川央委員】 岩手県立大学の和川と申します。網羅的に分かりやすく整理していただきましてありがとうございます。2点ほど質問をさせていただきます。

1 ページ目、人口推移の上のグラフの目指す将来人口の目標値の設定の考え方です。後ろの方には合計特殊出生率の目標値があり、そして資料2に行くと社会増減の目標値があります。この将来人口の最終的な8.26万人あるいは7.35万人という目標値は、これらの施策を達成すれば将来人口を達成できるような積み上げ型の関係性になっているのでしょうか。まず1点確認させていただければと思います。

2点目は資料2の枠の中で合計特殊出生率と出生数についてコメントが書かれておまして、合計特殊出生率の低下については晩婚化と要因を特定されていて、出生数については、産む女性の数の減少と要因を特定されていて、非常に素晴らしいなと感じております。私は以前ある自治体の出生数減少の分析を支援したことがあるのですが、その自治体は出生数の減少は合計特殊出生率の低下が全ての原因だと思っていました。しかし、実際に分析をしていくと、出生数の減少は、実は女性の減少でほぼ説明できるという自治体でした。つまり産む女性がいなかったことが、これまでの出生数の減少をほぼ全て説明できるという結果でした。さらに合計特殊出生率が減少した原因は、有配偶者の出生率はその地域では全然減ってなく、そもそも結婚しない人が増えているために合計特殊出生率が減っていると。だから結婚すれば出生数はほぼ変わってないというそういう自治体でした。

こうやって分析をして要因を特定することで、よりメリハリのある施策を打つことは非常に素晴らしいことだと思うのですが、この二つの要因というのは、こういう定量的な分析で出てきた要因の特定なのか、あるいは業務をしながら肌感覚として出てきた要因の特定なのかというのを2点目として質問させていただければと思います。以上です。

【中村良則座長】 最初は目標値の設定。根拠みたいなことですね。次は実際にその要因はどういうところから特定したかという質問ですね。

【伊藤秘書政策課長補佐】 1点目の人口目標の数字が積み上げかどうかということですが、結論を申し上げますと特に積み上げというのではなく、平成27年10月に花巻市人口ビジョンを策定いたしまして、その中で国の推計なども参考にしながら、その時点の目標数値として掲げた将来人口ということです。

2点目の合計特殊出生率の要因分析ということですが、肌感覚で捉えた内容といい

ますか、特に詳しい分析まではできておりません。全国的な晩婚化ですとか未婚化という流れを捉えて、当市でもそのような状況があるのではないかと考えた次第です。以上です。

【中村良則座長】 よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか？

【石川恭成委員】 県南広域振興局の石川です。丁寧なご説明ありがとうございました。今の和川委員のご質問にも関連しますけれども、3ページの年代別社会増減数のグラフは花巻市独自に集計を行ったということで、これは県ではなかなかできない。さすがというか、まさに市町村ならではの、住民基本台帳をもとに集計を行ったということで素晴らしいグラフだなと思って見ていたのですが、先ほど若い女性が減少しているというお話はまさにここなのだろうなと思っています。残念ながら男女の構成比が見えないのですが、男性と女性で転出転入の傾向は差があるのではないかとということをよく言われますが、その辺肌感覚でも結構ですが、どのように見てらっしゃるかというのをもしあればお願いできればと思います。

【伊藤秘書政策課長補佐】 年代別の社会増減数ということで、大元は花巻市の住民基本台帳を元にして集計させていただいておりますが、現時点では性別での集計はとりまとめられておきませんので、女性の状況についても捉えてないところでございます。

【中村良則座長】 よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか？

ちなみに先ほどの女性の数について、1ページの青い推計（将来人口目標値）を算出したのは私なんです。そのときは年代別にずっと数字を出しましたが、15歳から18歳、20歳前半の女性の減少というのは、花巻はそれほど大きくないなと実は思っていました。圧倒的に多いのはやはり高校生の時に首都圏に出ていく。あるいは仙台に出ていくものが多い。女性に関して言うと、県外というよりは、盛岡に出ていく人がとても多いというのが当時の印象でした。参考までにということで。

他にいかがでしょうか？もしなければ、これは現在の花巻の人口動態の概況ということですので、またいつでも結構ですので先に進もうと思います。では続きまして（2）花巻市まちひとしごと創生総合戦略令和3年度効果検証について事務局より説明をお願いいたします。

富澤秘書政策課長から、資料 No.2 「花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和3年度効果検証」に基づき説明。

【中村良則座長】（中村良則座長）これはまち・ひと・しごと創生総合戦略は令和5年度が最終目標だけでも現時点での達成状況の評価ということですね。2ページを見て単純に言うと、数値目標が30%、KPIが43.6%、点数にすると30点と43.6点という点数になるよというように思います。何かこの現状の達成目標に対してご意見があれば挙手をお願いします。

【高橋忠和委員】 岩手銀行花巻支店の高橋と申します。指標の達成状況についてですが、先ほどご説明がありましたとおり、花巻市に住み続けたいと思う市民の割合が減少し

た詳しい要因がわからないというお話がありましたけれども、市民アンケートの中には要因について記載する欄があったのかどうか、そういう分析をできる様式のアンケートであったのかというのが1つ、そして防災面についての市民の割合についても同じで、これは実績値が目標よりもかけ離れていることから、どういう方向性が必要なのかというところの要因分析をしっかりと進めていく必要があるのかなというところが1点、もう1点が、基本目標2の重点方針2ですけれども、新規誘致企業の数の実績値が0ということで、これはコロナ禍の中でなかなか活動ができなかったというところが原因なのか、それとも働きかけをしていたけれども、うまくできなかったというところが要因なのかそれをご説明いただければと思います。

【中村良則座長】はい、3点ですね。住み続けたいと思うことに関して何か内容的な答えはあったのかと、防災についてはどうかと。それから3点目は新規立地企業数がゼロであるということについてどうかということ。お願いいたします。

【伊藤秘書政策課長補佐】1点目の「これからも花巻市に住み続けたいと思う40歳以上の市民の割合」、「15歳から39歳の市民の割合」に関する市民アンケートの設問について、具体的な要因を書いていただく様式としているかですが、該当する回答を選択いただくのみで、その具体的な理由を記述する様式とはしておりません。また、防災につきましても同様の状況でございます。

3点目の基本目標の2の重点方針2の指標の中の新規誘致企業数について、令和3年度の実績がゼロだということにつきましては、やはりコロナ禍におきまして、新規の立地がかなわなかったということがございます。具体的に市の担当の部署が出向いてお話をさせていただくということがなかなか難しい状況だったというのが要因としてございます。

【中村良則座長】そのアンケートに関しては様式的な改善は可能でしょうか。

【富澤秘書政策課長】アンケートの項目については少し検討させていただきたいと思っております。花巻市まちづくり総合計画に沿った市政全般にわたってのアンケートということで、非常に設問数が多く、それがゆえになかなか回答数が得られないということも考えられるところですので、そのことも含め検討させていただきます。

【岩間総合政策部長】企業誘致の関係を少し追加で説明をさせていただきたいと思っております。花巻市におきまして、一番課題となっておりますのが、企業誘致をしようと思ってもその場所がない、土地がないという状況がございます。それを受けて現在産業団地の整備を進めているということがございます。そういうことも一つは背景にあるということです。

それから令和4年度におきまして、新規企業立地は複数件ございまして、令和3年度には結びつかなかったけれども、令和3年度の活動で、令和4年度に新工場の設立ですとか、様々そういう動きがありましたので、令和3年度はその下準備の期間に当たってしまったのかなと捉えております。以上でございます。

【中村良則座長】では他にいかがでしょうか。

【佐藤充委員】労働側の立場で、まず質問ですけれども資料3ページになります。こち

らの数値目標の状況というところで、岩手県全体に占める本市の製造品出荷額等の割合とありますが、この数字を出したベースというのは出荷数ではなく額でよろしいでしょうか？（事務局より正しいと回答）額ということを確認した上で、この製造品の生産の関係ですね、産業として今の状況について労働側の立場としての情報という形で出しますが、特にコロナの状況に入ってからですね、出荷数としてはそこまで変わったりしておらず、むしろ下がったりしていることが多いのですが、特にウクライナの侵攻等々の状況において部品の値段がかなり上がったというのがあります。

農業関係の方々も多分影響があると思うのですが、家畜の飼料がものすごい金額になったりして、廃業に追い込まれるという状況もあるのですけれども、特にこの製造業の部分ですね、どうしてもコロナになってから体制が難しくなりました、とにかく製品を出さないと売り上げが減っているので、頑張らなければならない。そういう状況を踏まえて、私の会社の方でも部品一つを従来の20倍の値段で買うというような状況が当たり前のようにあります。それをお客さんに全部転嫁できないというのはよくニュースでも取り上げられていますが、多分この出荷額としての部分を見ると、かなり中小企業の方々というのは、部品等の金額を載せたところと載せてないところもあり、載せると1割や2割なんて簡単に上がってしまう金額になっています。

つまりは、ここのパーセンテージ、今実績としてかなりよろしい数字になっていますが、多分長い年月、特に目標値の令和5年度になるまでの部分での数字では状況が違うところもあるので、この数字を鵜呑みにするとなかなか難しい結果に変わる場合があるというところをお伝えしておきたいと思います。

あとはもう一つ、4ページ。花巻市の新しい人の流れを作るというところで、近隣市の新規立地した工場という部分では住む方が増えたというのは北上市もそうだったのですが、私は働いている方々やその関係する方々といろいろ繋がりありまして、話を聞いてみると花巻市のほうがやはり住みやすいと言います。特に子育ての体制であったりとか、生活でいうとゴミ袋の値段も全然違ったりというような話もいろいろ聞いております。そういう部分では花巻市はとても市民に優しいという意見があります。多分ここを今後も市としては力を入れて展開していったりとか、これから来る方々へのアプローチという部分ではしっかり見える形で出していったりした方がよろしいのかなというところはございます。

ただし、今後もこの企業立地という部分で花巻市は難しいというところだったので、それ以外の部分のアプローチというところ、やはり人材の確保の部分を大きくすると新しい人は入ってくるかなと思います。後は新たに住み始めた方々に今住んでいる周りの企業がどうなっているかというのも伝えて、いろいろ産業が変わってくる時代ですので、新しい仕事であったりとか、定住のためにはこういう職業もいいかなという部分を意識付けられたりするような活動していただければよろしいのかなと思っております。すいません長くなりましてありがとうございます。

【中村良則座長】 質問というかご意見というか、情報提供も含めてですね。

【伊藤秘書政策課長補佐】 はい。重要な情報、ご意見を頂戴しましてありがとうございます。いただいた内容も踏まえて、今後検討していきたいと思います。

【中村良則座長】はい他にいかがでしょうか。はいどうぞ。

【和川央委員】岩手県立大学の和川でございます。ご説明ありがとうございます。3点ほど質問させてください。2ページ目です。3年度の全体集計として達成割合が30%、40%云々と出ていますが、目標が令和5年度に対して令和3年度の実績値で達成割合を算出していると見受けられます。これをどのように花巻市は解釈されているのかなど。要は目標年度の3分の1に来ているから、今は30%でちょうどいいと考えていらっしゃるのか。このあたりの達成割合の解釈をどう考えていらっしゃるか、1点目教えてください。

次に3ページ目になります。数値目標が製造品出荷額等の割合となっておりますが、出荷額ではなく割合とした理由が何だったのか教えていただければと思います。経済動向があるので額の目標を立てづらかったのかなと想定はしますが、そもそもここは働ける場所を作るという量の問題を議論している重点目標であることを考えれば、その手段もシェアがどうこうではなくて、量で議論するべきではないかなと思いますが、なぜここが割合になっているのか2点目としてお知らせをいただければと思います。

3点目はコメントになります。5ページ目になります。合計特殊出生率の減少について1行目に書いてあって、これは女性の社会進出、晩婚化、非婚化が要因であると書いてあって、晩婚化、非婚化は事実なのでその通りかなと思うのですが、社会進出、これが果たして課題なのか。何が言いたいかという、社会進出が課題なのではなくて社会進出しても子どもを産めない状態が課題なのであって、そしてその課題を我々が今議論しようとしているということを考えれば、その要因を社会進出と説明するのは、いかがなものかなと感じました。以上です。

【中村良則座長】質問が2点と、コメントが1点ということでした。いかがですか。

【伊藤秘書政策課長補佐】1点目について、全体の数値目標の捉え方についてですが、私どもで策定をいたしました第2期まち・ひと・しごと総合戦略の中で、数値目標としまして、基準値を令和元年度の数値、目標値を令和5年度の数値として二つ数値を設けさせていただいております。その間の各年度目標数値というのは戦略の中では設定しておりませんので、あくまで令和3年度の実績値と令和5年度の目標値を比較したものとして資料を作成しておりますし、そのような分析をしております。

2つ目のご質問について、岩手県全体に占める本市の製造品出荷額等の割合について、量ではなくてなぜ割合かということですが、こちらは総合戦略を策定したときに、岩手県の工業という資料の統計数値を使わせていただいております、公表された実績値を引用して設定しております。

3点目の社会進出についてのご指摘はその通りでございます、ご意見として承りまして今後の分析を進めさせていただきたいと思っております。

【中村良則座長】和川さんいかがですか。追加で何かありますか。

【岩間総合政策部長】1点目のご質問は、数値目標をどういうふうに捉えるかということのご質問かと思われましたので、例えばステップを踏んで少しずつ進んでいくというような目標であればまだ3分の1でいいということはあると思いますけれども、例

えば意識ですとか、そういうものについては、もう下がってしまっているというような項目もあるのが事実でございますので、これについて策定期間の3分の1だから30%でもいいというような捉え方は、できないものと思っております。やはり課題についてきちんと我々の方で分析して、そのようなものについては早く改善を図っていく必要があるだろうと思っております。

それから社会進出につきましては、先生からの御指摘はごもっともだと思います。それ自体が問題とか課題ということではなくて、社会進出したことによって、やはり女性の方が結婚を躊躇するとか、子どもを産むということに負担感を感じるということになっていることが問題であると捉えるべきだと思いますので、ご指摘はその通りだと思います。ありがとうございます。

【中村良則座長】 よろしいでしょうか？はい他にどうぞ。

【石川恭成委員】 県南広域振興局の石川です。最初にこの会議の開催時期が少し遅くなってしまったとご説明もありましたが、この令和3年度の実績評価について、令和3年度を振り返ってみると、コロナに関しては多分デルタ株あたりでしたかね、重症化して県内でも感染者が広がって、重症化して亡くなる方も増えているというような、令和4年度よりもひどい状態だったかもしれません。

そういった中で市民の方もかなりマインドが下振れしていた時期で、今後はどうなるんだろうみたいな雰囲気でも満足度もかなり落ちていた時期だったのではないかなというふうに思います。なので、基本目標3とか4とかの部分がかかなり三角（低い評価）になってしまったのはやむを得ない部分があるのかなと思いつつも、この後、令和4年度、令和5年度が、このコロナの影響が一時的であって下振れが戻ってきていますという話なのか、それともそれが続いて、何かマインドがもう低下したものが常態化してしまっているというものになるのかということについて、今後その動きが見えてこないとなかなかこの令和3年度という単年度を評価するのは難しいのかなという気もしております。例えば先ほど令和4年度の数字が紹介されたものもありましたので、今の段階でわかっているものがあるのであれば、そういったことも含めて、令和3年度はこうでしたけども、令和5年度は数字が戻ってきているといった肌感覚などがあれば、そういう説明をしていただけると安心できる部分もあったり、本当にこれで大丈夫かなというところもあったりするので、その辺ももし可能であれば、今後ですね、特に令和4年度の効果検証の際はコメントいただけるとありがたいかなということでした。

【中村良則座長】 もっともかなと思います。今言えることがあればお願いします。

【富澤秘書政策課長】 はいありがとうございます。会議開催が令和5年度になってしまったのでありますが、現在、令和4年度に実施した事業の決算がこれからということもございますし、事業評価、行政評価を現在行っているところでございます。これまでに有識者会議は、前年度事業の決算、行政評価の結果をふまえ、次年度下半期の冬に開催してきたところでございます。令和3年度分の実績報告がこの時期になってしまったことをお詫び申し上げます。令和4年度分の実績報告につきましては、今年度下半

期の冬になろうかと思えますけども、会議を開催させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

【岩間総合政策部長】今、富澤秘書政策課長が申したとおりですけれども、ざっくりとした方向ということで申し上げれば、例えば3ページの観光に関する指標の数字につきましてはやはり大幅に回復してきているというのはありますので、この数値につきましては新型コロナウイルス感染症が5類に移行したということもありますので、今年度はさらに改善するのではないかなと思っております。誘致企業の関係につきましては、先ほど申し上げたとおり、これも改善の方向にあると捉えております。そのような中で特にまだ我々の方で把握できないというのが市民の満足度といった意識の部分であり、市民の皆さんがどう考えているかという部分については、これから市民アンケートの結果を見ながら分析ということになります。プラス方向に振れているといいなとは思っております。

【中村良則座長】今年度後半を待ちたいと思います。それではだいぶ時間も過ぎてまいりましたので先に進めます。

続きましてですね、(3) 地方創生関係交付金の実施状況の報告について説明をお願いします。

富澤秘書政策課長から、資料 No. 3 「地方創生関係交付金実施状況報告書」に基づき説明。

【中村良則座長】これは地方創生関係の交付金の事業の効果検証、それからコロナ関連の臨時交付金の配分状況ということでした。何かお気づきの点があれば、ご意見等お願いたします。

【和川央委員】岩手県立大学の和川でございます。1点、評価の仕方についてコメントだけさせていただければと思います。例えば3ページ目でございます。

2番で広場の下の段に広場の利用者数、売上高がありますけども、こちらはまだ事業が実施しない時期だから目標値がゼロ。実施しなかったから実績もゼロで、a判定になっています。ここの指標3がc判定ですけれども、何もしなくてもaのものが二つあるために全体としては評価が繰り上がってB判定になっている。達成状況だけ見るから機械的に判断するというのであれば、割り切ることはあり得とも思いますが、一方で先ほどご説明あったように、P D C Aを回すということを考えなければいけないのに、課題を隠しているように見えてしまいます。これをバー (-) にするとか、何かしら適切なP D C Aを回すようなやり方というのをご検討されてもいいのかなと感じました。これはコメントです。

【中村良則座長】はい、もっともだろうと思います。何かありますか。

【富澤秘書政策課長】はいおっしゃる通りでございますので、改めさせていただきます。ありがとうございます。

【中村良則座長】他にいかがでしょうか？もしなければ以上で現時点のまち・ひと・しごと創生関係の取組の状況についての現状報告ということで、全体を終了したいと思います。

います。

5 その他
特になし

6 閉会